## 専門学校ESPエンタテインメント東京　音楽アーティスト科

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | DAW Ⅰ | | 授業形態 / 必・選 | 実習 | 必修 |
| | 学則上表記 | DAW Ⅰ | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分（1単位時間45分） | 年間授業数 | 37回（74単位時間） | 年間単位数 | 2単位 |
| 科目設置コース | ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース<br>・ギターヴォーカルコース・ヴォーカルコース<br>・ダンスヴォーカルコース | | | 教員の<br>実務経験の有無 | 該当 |
| 担当講師<br>実務経歴 | 実務経歴13年<br>ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また、アイドルや声優の楽曲や CMのサウンドロゴの作編曲。MIX、MASTERINGまで自身で行い、ライブではマニピュレータとしての活動も行っている。 | | | | |

**授業概要**

音楽制作ソフト(DAW)でのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。

**到達目標**

PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるように)なる知識、実践方法を学ぶ。

**授業計画・内容**

| | |
|---|---|
| 【前期】<br>1～5回目 | PCの操作方法の指導、音楽制作ソフト(DAW)の操作方法の指導<br>・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存)<br>・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 |
| 【前期】<br>6～10回目 | 各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導<br>・各作業用ツールの説明<br>・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解 |
| 【前期】<br>11～15回目 | ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解<br>・各楽器を理解し、4小節(16小節＋α)の課題曲の作成 |
| 【前期】<br>16～19回目 | 「前期試験対策」<br>・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習 |
| 【後期】<br>20～29回目 | 各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成<br>・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成<br>・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践<br>・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ)<br>・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ |
| 【後期】<br>30～34回目 | ツーミックスのバウンス作業<br>・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ<br>・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む) |
| 【後期】<br>35～37回目 | 「後期試験対策」<br>・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習 |
| 評価方法 | 学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価） |
| 備考 | |

## 専門学校ESPエンタテインメント東京　音楽アーティスト科

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| **授業科目名** | 音楽理論Ⅰ | **授業形態 / 必・選** | 講義 | 必修 |
| **学則上表記** | 音楽理論Ⅰ | **年次** | 1年次 | |
| **授業時間** | 90分（1単位時間45分） | **年間授業数** | 37回（74単位時間） | |
| **年間単位数** | 4単位 | | | |
| **科目設置コース** | ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース<br>ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース<br>ベースコース・ドラムコース | **教員の実務経験の有無** | 該当 | |
| **担当講師 実務経歴** | 実務経験33年<br>ギター演奏を中心に多数のレコーディングやアーティストサポート、アーティストへの楽曲提供、<br>劇伴、作編曲、楽曲プログラミング、教則本の執筆やトレーナーなど活動は、多岐に渡る。 | | | |

**授業概要**

音楽に関する基礎的な音楽理論（ベーシックセオリー）を学び音楽に対する基礎的な知識を身に付け、
楽曲制作や演奏する楽曲の理解や実演奏へのフェードバックさせる為の授業内容になってます。

**到達目標**

アーティスト、演奏家にとって大事な共通言語とされる
基礎的な音楽理論の理解を深め自己の演奏に反映させ修得出来る事を目指す。

**授業計画・内容**

| | |
|---|---|
| 【前期】<br>1～5回目 | 基礎知識 (1)<br>·音楽記号. ·拍子記号. ·音名. ·音符、休符 ·音の高さ<br>·調号、Keyに付いて、#系 と b系（1）. ·Tone Interval（1）1度、3度、5度、7度音程（完全、長、短、減） |
| 【前期】<br>6～10回目 | 基礎知識 (2)<br>·調号、Keyに付いて、#系 と b系（2）. ·Tone Interval（2）1度、3度、5度、7度音程（完全、長、短、減）<br>·Degree(度数)表記(1) Ⅰ－Ⅱ － Ⅲ － Ⅳ － Ⅴ － Ⅵ － Ⅶ ·サークルオブフィフス（五度圏）·コードネームの表記方法(1) |
| 【前期】<br>11～16回目 | 基礎知識 (3)<br>·調号、Keyに付いて、#系 b系（3）·Tone Interval（3）1度、2度、3度、4度、5度、6度、7度音程（完全、長、短、減）<br>·Degree(度数)表記(2). Ⅰ－Ⅱ － Ⅲ － Ⅳ － Ⅴ － Ⅵ － Ⅶ. · Major Scale上に出来る三声、四声和音 ·コードネームの表記方法(2) |
| 【前期】<br>17～19回目<br>(前期試験) | Diminished(減5、減7)音程、Augment(増5)音程から出来る和声とは、 / Chord FunctionからDominant Motion / Secondary Dominant<br>·Diminished Chord、Augment Triad Chord ·ダブルフラット、ダブルシャープ<br>·Chord Function（1）·Dominant Motion（1）·導音、トライトーンとは、何か. ·Secondary Dominant（1）二次的なDominantとは、 |
| 【後期】<br>20～25回目 | ケーデンスに付いて、<br>·ケーデンスのパターン Tonic Sub Dominat Dominantの進行パターン<br>·Dominant Motion (2)· Secondary Dominant（2）Secondary Dominantを使ってみる |
| 【後期】<br>26～30回目 | 転調のパターン / コードプログレッション<br>·平行調、同主調、近親調、遠隔調 ·各調へのコードプログレッションなど<br>·Dominant Motion（3）· Secondary Dominant（3） |
| 【後期】<br>31～35回目 | [Logicの使い方応用 3]<br>ミックスでよく使われるイコライザやコンプレッサーの基礎知識や使い方を学習し、<br>自作曲のクオリティをあげるような学習。 |
| 【後期】<br>36～37回目<br>(後期試験) | Tonic minor Scaleとは(2)<br>·Natural minor、Harmonic minor、Melodic minor Scale上に構築されるダイアトニックコードとDegree(度数)<br>·Natural、Harmonic、Melodic上に構築されるダイアトニックコードダイアトニックコードとDegree(度数) / コードプログレッション |
| 評価方法 | 学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価） |
| 備考 | |

## 専門学校ESPエンタテインメント東京　音楽アーティスト科

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | 分野別講座 | | 授業形態 / 必・選 | 講義 | 必修 |
| | 学則上表記 | 分野別講座 | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分（1単位時間45分） | 年間授業数 | 44回(88単位時間) | 年間単位数 | 5単位 |
| 科目設置コース | 音楽アーティスト科全コース | | | 教員の<br>実務経験の有無 | 該当 |
| 担当講師<br>実務経歴 | 実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。 | | | | |

**授業概要**

専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。

**到達目標**

自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。

**授業計画・内容**

| | |
|---|---|
| 【前期】<br>1～6回目 | ビジネス文書 |
| 【前期】<br>7～14回目 | コミュニケーションについて |
| 【前期】<br>15～17回目 | ・音楽活動における基礎知識<br>音、電気、マイクスピーカーについて |
| 【前期】<br>18～19回目 | 所得税と源泉徴収・確定申告 |
| 【前期】<br>20～23回目 | 音楽業界基礎知識＃1-3 |
| 【後期】<br>24～44回目 | 音楽業界基礎知識＃4-25 |
| 評価方法 | 学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価） |
| 備考 | |

## 専門学校ESPエンタテインメント東京　音楽アーティスト科

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | アーティスト実地演習Ⅰ | | 授業形態 / 必・選 | 演習 | 必修 |
| | 学則上表記 | アーティスト実地演習Ⅰ | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分（1単位時間45分） | 年間授業数 | 20回(40単位時間) | 年間単位数 | 2単位 |
| 科目設置コース | ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース<br>ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース<br>ベースコース・ドラムコース | | | 教員の<br>実務経験の有無 | 該当 |
| 担当講師<br>実務経歴 | 各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。 | | | | |

| 授業概要 |
|---|
| それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。 |

| 到達目標 |
|---|
| 現場における作業、流れ等のノウハウ習得。<br>イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 |

| 授業計画・内容 | |
|---|---|
| 【前期】<br>1～3回目 | アーティスト特別セミナー |
| 【前期】<br>4～6回目 | 個人プロフィール制作 |
| 【前期】<br>7～9回目 | 各コースイベント |
| 【前期】<br>10回目 | アンサンブル発表会 |
| 【後期】<br>11～13回目 | コースイベント |
| 【後期】<br>14～16回目 | ライブ見学 |
| 【後期】<br>17～19回目 | アンサンブル発表会 |
| 【後期】<br>20回目 | コース別ファイナルイベント |
| 評価方法 | 学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価） |
| 備考 | |

## 専門学校ESPエンタテインメント東京　音楽アーティスト科

<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目名</td><td colspan="2">アンサンブルⅠ</td><td>授業形態 / 必・選</td><td>実習</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>学則上表記</td><td>アンサンブルⅠ</td><td>年次</td><td colspan="2">1年次</td></tr>
<tr><td>授業時間</td><td>90分（1単位時間45分）</td><td>年間授業数</td><td>74回(148単位時間)</td><td>年間単位数</td><td>4単位</td></tr>
<tr><td>科目設置コース</td><td colspan="3">ギターコース、ベースコース、ドラムコース、ヴォーカルコース<br>シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース<br>ダンスヴォーカルコース</td><td>教員の<br>実務経験の有無</td><td>該当</td></tr>
<tr><td>担当講師<br>実務経歴</td><td colspan="5">実務経験14年<br>自身の活動として楽曲配信やソロアルバムを発売、Youtubeにおいてはレッスン動画や業界の知識を配信等、積極的に活動。またエンジニアとしても活動しておりミックスやマスタリング、そして作曲等も全て自主でこなし、楽曲提供や数々の著名なヴォーカリストと共演。</td></tr>
<tr><td colspan="6">授業概要</td></tr>
<tr><td colspan="6">コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。<br>アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成（MCや曲間の繋ぎ）、アンサンブルに必要な要素（テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス）の重要性を学ぶ。<br>題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。<br>MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。</td></tr>
<tr><td colspan="6">到達目標</td></tr>
<tr><td colspan="6">合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。<br>授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。<br>コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。</td></tr>
<tr><td colspan="6">授業計画・内容</td></tr>
<tr><td>【前期】<br>1～33回目</td><td colspan="5">アンサンブルとは何か<br>課題曲①～④<br>アンサンブルフェスティバルへ向けて</td></tr>
<tr><td>34～38回目</td><td colspan="5">アンサンブルフェスティバルの事前資料作成<br>・セット図の書き方を学び、作成する。<br>・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。<br>・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。</td></tr>
<tr><td>【前期】<br>39～42回目</td><td colspan="5">半期のまとめ<br>・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。</td></tr>
<tr><td>【後期】<br>43～70回目</td><td colspan="5">アンサンブルとは何か<br>課題曲①～④<br>アンサンブルフェスティバルへ向けて</td></tr>
<tr><td>【後期】<br>70～71回目</td><td colspan="5">アンサンブルフェスティバルの事前資料作成<br>・セット図の書き方を学び、作成する。<br>・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。<br>・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。</td></tr>
<tr><td>【後期】<br>72～74回目<br>（後期試験）</td><td colspan="5">半期のまとめ<br>・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="5">学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="5"></td></tr>
</table>

## 専門学校ESPエンタテインメント東京　音楽アーティスト科

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | ヴォイストレーニングⅠ | | | 授業形態 / 必・選 | 実習 | 必修 |
| | 学則上表記 | ヴォイストレーニングⅠ | | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分（1単位時間45分） | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 2単位 | |
| 科目設置コース | ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース | | | 教員の実務経験の有無 | 該当 | |
| 担当講師実務経歴 | 実務経歴21年。様々なステージ、メディア出演を経験、有名アーティストの出演CMで1,000人の歌唱指導を担当。<br>現在の指導対象はミュージシャンのみならず、俳優、映像、舞台など幅広い指導経験を持つ。 | | | | | |

**授業概要**

楽器である身体を鍛える為の筋力トレーニング、体幹トレーニングを行い、更に歌唱時に必要な身体の使い方を学ぶ。
シンプルなスケールを使ったメソッドを繰り返し行う。

**到達目標**

各カテゴリーに対して正しい知識を理解すると共に、身体全体を鍛えると共に発声に必要な身体の部位を鍛え、正しく使えることを目的とする。

**授業計画・内容**

| | |
|---|---|
| 【前期】1～4回目 | ヴォーカリストに必要な生活習慣のレクチャー、歌う前に身体の緊張を解す準備運動、基本姿勢、発声に必要な横隔膜及び胸郭の使い方を学ぶ。 |
| 【前期】5～8回目 | 発声時に腹圧をどのように設定し、それをどの状況でコントロールするのかを、スケール(音階)を使用したメソッドで繰り返しトレーニングする。 |
| 【前期】9～12回目 | 言葉を発する時の唇、舌、顔の筋肉の基本的な使い方を学ぶと同時に、それぞれの部位を正確に動かせるように繰り返しメソッドを行うことで鍛えていく。<br>また、強弱や明暗などのコントロールを応用として行えるようにする。 |
| 【前期】13～16回目 | ワードを混ぜ合わす事により普段思いもしないような言葉が生まれ、思わぬ発見ができるということを理解し個々の引き出しを増やす |
| 【前期】17回目 | 「前期試験」 |
| 【前期】18～20回目 | 高音域を発声するのに必要な声帯及びその周囲の筋肉の基本的な使い方を学び、対してNGパターンも併せて学ぶ。また、ただ発声出来ているだけではなく、必要な共鳴を備え、その度合い(太い、柔らかいなど)をコントロール出来るように様々なメソッドを繰り返し行う。 |
| 【後期】21～23回目 | 【前期】18～20回目を継続 |
| 【後期】24～26回目 | 声を真っ直ぐに伸ばす時や音程が上がる時に、その声の共鳴を安定したものにする身体の使い方を、様々なスケールトレーニングを繰り返し行うことにより学ぶ。 |
| 【後期】27～29回目 | 歌詞の内容や曲調に対して必要な声のトーンにはどのようなものがあるかを知り、それらを実際に使える技術を身に付ける。<br>更にどのトーンをどういう場合に使うかのセンスも学ぶ。 |
| 【後期】30～32回目 | 今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高める。 |
| 【後期】33回目 | 後期試験 |
| 【後期】34～37回目 | 今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高めることを継続する。 |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価） |
| 備考 | |

## 専門学校ESPエンタテインメント東京　音楽アーティスト科

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | ヴォーカリスト基礎知識 | | 授業形態 / 必・選 | 講義 | 必修 |
| | 学則上表記 | ヴォーカリスト基礎知識 | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分（1単位時間45分） | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 4単位 |
| 科目設置コース | ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース・ギターヴォーカルコース | | | 教員の実務経験の有無 | 該当 |
| 担当講師実務経歴 | 実務経歴22年。様々なステージ、メディア出演を経験、有名アーティストの出演CMで1,000人の歌唱指導を担当。現在の指導対象はミュージシャンのみならず、俳優、映像、舞台など幅広い指導経験を持つ。 | | | | |

| 授業概要 |
|---|
| ヴォーカリストとして活動していく上で必要な基礎知識を学びながら、音楽・エンターテインメント的見識を元にした様々な体験を重ねる。 |

| 到達目標 |
|---|
| ヴォーカリストに必要な基礎的知識を学ぶことによって、活動していく上でのスキルを身に着ける。 |

| 授業計画・内容 | |
|---|---|
| 【前期】1～5回目 | 音楽の三大要素メロディ・ハーモニー・リズムについて知る<br>音階・音程・コード・拍子等について知る<br>コード理論を知る(トライアードまで)<br>音楽ジャンル曲調について知る<br>フィジカルトレーニング |
| 【前期】6～10回目 | ステージング・ライヴパフォーマンスについて知る<br>発表会(2週)<br>フィジカルトレーニング |
| 【前期】11～15回目 | マイクについての知識、ダイナミックとコンデンサー、各メーカーの特徴などヴォーカルが知っておくべきマイク・機材の特性を知る<br>フィジカルトレーニング |
| 【前期】16～20回目 | 発表会を振り返り、ヴォーカルパフォーマンスにおける長所・短所を自覚する<br>著作権について知る<br>音楽専門用語・業界専門用語について知る |
| 【後期】21～24回目 | ライヴ業界(ライヴハウスやホールでのイベント・ライヴ運営、自身で外ライヴを行うまでに必要な過程など)を知る<br>オーディション・プロジェクトへのエントリー用プロフィール作成を通じてセルフプロデュースを知る<br>フィジカルトレーニング |
| 【後期】25～29回目 | アカペラコーラス講習<br>コード理論を知る(7thコード・テンションコード・分数コードなど)<br>有名なカバー曲からアレンジ能力を知る<br>フィジカルトレーニング |
| 【後期】30～34回目 | 実践型コード理論・音楽理論を通じて 作曲・編曲に活かせるテクニックを知る<br>ジャンル毎のグルーヴ・ビートからリズムの構造を知る<br>フィジカルトレーニング |
| 【後期】35～37回目 | MCや作詞を通じて 言葉での表現技術を知る<br>良質な音楽が扱われている映画やライヴ・コンサート等の鑑賞<br>アカペラコーラス講習<br>フィジカルトレーニング |
| 評価方法 | 学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価） |
| 備考 | |

## 専門学校ESPエンタテインメント東京　音楽アーティスト科

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | ヴォーカル＆ヴォイトレⅠ | | 授業形態 / 必・選 | 実習 | 必修 |
| | 学則上表記 | ヴォーカル＆ヴォイトレⅠ | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分（1単位時間45分） | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 2単位 |
| 科目設置コース | ヴォーカルコース | | | 教員の実務経験の有無 | 該当 |
| 担当講師実務経歴 | 実務経験29年。音楽大学音楽教育学部卒業後、高校音楽科非常勤講師を経てダンスヴォーカルグループでの活動の他、アーティストのコーラスなどに参加。現在はアーティスト、ライバー、アイドル等のヴォイストレーニング、軽音部コーチなど後進の育成を手掛けている。 | | | | |

**授業概要**

ヴォイストレーニングで学んだことが実際に曲を歌う中で織り込めているかを確認し、出来ていないものの再習得のトレーニングを行い、より実践的な身体の使い方を身に付けていく。

**到達目標**

その曲のそのフレーズに必要な発声法をより確実に行うことにより、伸びやかさと力強さ、柔らかさを兼ね備えた声を駆使出来るヴォーカリストになることを目指す。

**授業計画・内容**

| | |
|---|---|
| 【前期】1～4回目 | 姿勢、呼吸の自由曲の中での実践、修正、底上げが、歌唱の中で正しく行えているかの確認を行い、行えていないものに関してヴォイストレーニング的メソッドを繰り返し行う。 |
| 【前期】5～8回目 | 腹式の自由曲の中での実践、修正、底上げ。共鳴と関連付ける必要性を理解させ、出ている声の質、発声している本人の喉の負担等の知識も併せて学ばせる。 |
| 【前期】9～12回目 | 低いメロディーや柔らかい声の時の発音の弱さ、高音域や激しいオケの時のずっと強すぎる言葉の修正を主なものとする。また、フレーズ内で強弱の差を付けるコントロールも実践出来るようにする。 |
| 【前期】13～15回目 | 曲の世界観を伝えるのに必要な、伸びやかな声やパワフルな声などを正しく作れているかを主なものとする。更に、フレーズ内でその大小、強弱をコントロールする方法も学ぶ。 |
| 【前期】16～18回目 | フレーズ内の高音域を発声するのに必要な身体の使い方が正しく出来ているかを確認、出来ていないところを、腹圧の度合い、喉の開き、共鳴の設定、重心の位置を主に確認、修正する。 |
| 【前期】19回目 | 前期試験 |
| 【後期】20～23回目 | 自由曲の中で、前期に学んだ内容を継続。 |
| 【後期】24～26回目 | フレーズ内のロングトーンの安定、音の跳躍時の重心の設定及び腹式発声の継続を主に確認、修正する。 |
| 【後期】27～31回目 | 歌詞の世界観、曲調に必要な声のトーンの設定を、腹式の度合い、共鳴の設定などを確認すて修正する。更に、フレーズ内での変化、コントロール方法も身に付ける。 |
| 【後期】30～31回目 | 学んだこと全てを、例題曲の中で実践出来ているかを総合的に確認、修正する。 |
| 【後期】32回目 | 後期試験 |
| 【後期】33～37回目 | 学んだこと全てを、例題曲の中で実践出来ているかを総合的に確認、修正する。 |
| 評価方法 | 学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価） |
| 備考 | |

## 専門学校ESPエンタテインメント東京　音楽アーティスト科

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | ヴォーカルテクニックⅠ | | 授業形態 / 必・選 | 実習 | 必修 |
| | 学則上表記 | ヴォーカルテクニックⅠ | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分（1単位時間45分） | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 2単位 |
| 科目設置コース | ヴォーカルコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース、シンガーソングライターコース | | | 教員の<br>実務経験の有無 | 該当 |
| 担当講師<br>実務経歴 | 実務経験10年<br>ESPミュージカルアカデミーヴォーカルコース卒業。2011年からヴォーカリストとしてライブや楽曲制作を開始。2018年に作詞家としてメジャーデビュー。現在に至るまで様々なクリエイターの楽曲に歌唱や作詞で参加。現在はゲームの主題歌やゲーム音楽を中心に活動している。 | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| 歌詞やオケ(楽器)の演奏に対して必要な様々なテクニックを理解、習得し表現力を高め、伝える歌、感動を与える歌を創る。 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| 歌詞の世界観に相応しい表現を織り込み、「伝わる歌」を歌えることを目指し、技術の高い歌をどのタイプの曲でも歌えるようになることを目標とする。 | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | |
| 【前期】<br>1～4回目 | ・口の開きや動きの強弱と腹圧の関係<br>・母音~子音~母音の流れに対する発音との関係<br>・オケのリズムアプローチとの関係 | | | | |
| 【前期】<br>5～8回目 | ・基本的なスケールトレーニング<br>・フレーズを抽出、その中での実践<br>・1コーラスでの実践 | | | | |
| 【前期】<br>9～12回目 | ・基本的なメソッドの修練<br>・ハミングでの歌唱<br>・フレーズでの実践 | | | | |
| 【前期】<br>13～16回目 | ・基本的なメソッドの反復<br>・1フレーズを抽出、実践<br>・1コーラスでの実践 | | | | |
| 【前期】<br>17～19回目 | ・共鳴の確認、副鼻腔・口腔・咽頭のバランスの確認<br>・各共鳴腔の増減のコントロール<br>・フレーズ、1コーラスでの実践 | | | | |
| 【後期】<br>20～23回目 | ・共鳴の副鼻腔・口腔内のバランスの確認<br>・息の量の増減、そのコントロール<br>・ナチュラルヴォイス→ファルセット→ナチュラルヴォイスの切り替え | | | | |
| 【後期】<br>24～28回目 | ・基本的なメソッドの反復、腹式呼吸との関連性<br>・1フレーズの抽出、反復<br>・1コーラス内での実践 | | | | |
| 【後期】<br>29～33回目 | ・基本的なメソッドの反復、ナチュラル→ファルセットの切り替え、音程の幅広い上げ下げ<br>・1フレーズ内での実践、テンポキープの確認<br>・1コーラスでの実践、入れる場所を選ぶセンスのチェック | | | | |
| 【後期】<br>34～37回目 | 学んだこと全ての確認、復習、修正 | | | | |
| 評価方法 | 学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価） | | | | |
| 備考 | | | | | |

# 専門学校ESPエンタテインメント東京　音楽アーティスト科

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | ヴォーカル課題曲Ⅰ | | 授業形態 / 必・選 | 実習 | 必修 |
| | 学則上表記 | ヴォーカル課題曲Ⅰ | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分（1単位時間45分） | 年間授業数 | 37回（74単位時間） | 年間単位数 | 2単位 |
| 科目設置コース | ヴォーカルコース | | | 教員の実務経験の有無 | 該当 |
| 担当講師<br>実務経歴 | 実務経験20年。<br>芸術大学、音楽大学院において声楽及び様々なジャンルの歌唱法を専攻。大学在学中よりコンサート、レコーディング等にヴォーカリスト、コーラスとして参加し、ミュージカルやオペラの出演などもしている。<br>それと並行してヴォーカルコーチとしてアーティスト、俳優、声優など後進の育成を手掛ける。 | | | | |

| 授業概要 |
|---|
| いくつかのテーマを設定し、それらを学ぶ課題曲を各テーマに対してバリエーションを持たせ提示、その中から個々の歌唱曲を選び練習していく。前期では楽曲に対してオリジナルに忠実にコピーすることを、後期は学生それぞれの個性を打ち出しながら、カバーすることを念頭に授業を展開させていく。 |

| 到達目標 |
|---|
| 俗に言うカラオケ上達ということではなく、音楽の中に存在することをしっかり見据えた【歌唱】のアプローチに必要なことを、設定されたテーマに沿った課題曲を歌唱することで、各スキルを習得することを目標とする。 |

| 授業計画・内容 | |
|---|---|
| 【前期】<br>1～5回目 | 楽曲へのアプローチを音楽、歌詞などさまざまな観点から考察していき、未収得スキルの課題を明確にしていく。<br>近年SNS等にアップされているようなアレンジされたメロディではなく、オリジナルに忠実なメロディの歌唱の習得を目的とする。 |
| 【前期】<br>6～10回目 | メロディを捉える（音程）<br>同音を含め様々な音程のインターバルをどのように捉え、アプローチしていくかの認識を明確にし、インプットとアウトプット両方から発声法、発音法などに特化する。（場合によりソルフェージュの教則本などを用いることも検討する。） |
| 【前期】<br>11～15回目 | メロディを捉える（リズム①）<br>テンポを掴み、8ビート、16ビート、シャッフルビートの楽曲に対する歌唱について。<br>エッグシェイカーやステップを踏んだり体感的なノリも追及する。 |
| 【前期】<br>16～19回目 | メロディを捉える（リズム②）<br>近年、日本の音楽業界に顕著に表れている変拍子、タイを多用した複雑なリズムを用いた楽曲に対する歌唱について。 |
| 【後期】<br>20～24回目 | 前期で習得した歌唱を活かし“コピー”から“カバー”へと概念を広げ、楽曲の持つ音楽特性、世界観など様々な角度からアプローチする。<br>個々の持つキャラクターを活かし、音楽の幅も広げることを念頭に外国曲やミュージカルなどの他ジャンルの楽曲を使用することもある。 |
| 【後期】<br>25～29回目 | 楽曲の世界観（音楽の特性）<br>全体の構成や楽器の使われ方、メジャーやマイナーなどのコード感など、音楽的見地からの特性を認識し歌唱に発展させていく。 |
| 【後期】<br>30～34回目 | 楽曲の世界観（言葉を伝える）<br>歌詞の物語や込められたメッセージを、どのように歌唱すれば聴いている側に伝わるのかを研究する。<br>歌唱前に歌詞を朗読することやその楽曲が作成された経緯などを調べる。 |
| 【後期】<br>35～37回目 | まとめ<br>これまでに学んできたことを念頭に、“自身の歌唱”を確立する。 |
| 評価方法 | 学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価） |
| 備考 | |

## 専門学校ESPエンタテインメント東京　音楽アーティスト科

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | フレージング | | 授業形態 / 必・選 | 実習 | 必修 |
| | 学則上表記 | フレージング | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分（1単位時間45分） | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 2単位 |
| 科目設置コース | ヴォーカルコース | | | 教員の実務経験の有無 | 該当 |
| 担当講師実務経歴 | 実務経験41年。1983年にメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動を続け、ロードレースのテーマソングを歌う。<br>デビューしたバンドの再結成全国ツアーを三年連続で行うなど、精力的に活動中。 | | | | |

| 授業概要 |
|---|
| 先ず既存のフレーズの発声面、技術面の分析及び解説を行い、それぞれの技術の目的と使った結果の効果を理解させる。<br>次に、講師が作成したフレーズにどのように技術を織り込むかの実践を行い、それらを使うセンスも身に付けさせる。 |

| 到達目標 |
|---|
| 歌詞の内容やオケ(楽器)の演奏に対して、“どの声でどの技術をどのポイントで使うのか”を身に付け、聴衆に感動を与える歌が歌えるようになることを目指す。 |

| 授業計画・内容 | |
|---|---|
| 【前期】1～4回目 | アップテンポの曲①を使用、アタックとアクセント」歌詞やメロディーに対して、その世界観やメッセージを伝える歌い方に必要な発声法及び表現法を学ぶという内容を理解させる。アップテンポの例題曲を使用し、アタック、アクセントの意味や目的の理解をさせ、リズムやグルーヴをフレーズ内に創る方法を講義形式で学ぶ。 |
| 【前期】5～8回目 | フレーズのリリースアウトに使うヴィブラート、フレーズ頭で使うエッジの目的を学び、それを身に付けるメソッドを知識として学ぶ。 |
| 【前期】9～12回目 | フレーズにグルーヴを与えるベンドの内容を理解させ、様々なメソッドを知識として学ぶ。 |
| 【前期】13～16回目 | フレーズ内に息の音をわざと入れる方法と目的を学び、それを身に付けるメソッドを知識として学ぶ。 |
| 【前期】17～20回目 | ウイスパーとファルセットの出し方の基本的な形を学び、様々なメソッドを学ぶ。更に、ナチュラルヴォイスとの切り替えに対して必要な身体の使い方を学び、実際の歌唱に繋げていく。 |
| 【後期】21～24回目 | ヒーカップとフォール」エキセントリック歌唱に効果的なヒーカップ、リリースアウトに入れることで効果を生むフォールの内容と目的を学び、それを習得するメソッドを学習する。 |
| 【後期】25～28回目 | 総復習 |
| 【後期】29～32回目 | 「講師作成のフレーズでの実践～アップテンポ編」講師が作成したアップテンポの1フレーズに対して、今まで学習してきたことを活かして歌詞、メロディー、オケ(楽器演奏)に対して、その世界観を伝える効果的なフレーズの作り方を考察する。 |
| 【後期】33～35回目 | 「講師作成のフレーズでの実践～バラード編」上の内容のバラード編 |
| 【後期】36～37回目 | 既成曲の歌詞、メロディーをピアノで弾いたもの、オケ(楽器演奏)のみを提示し、それに対してどうフレーズを組み上げるかを考察する。 |
| 評価方法 | 学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価） |
| 備考 | |